

平成 23 年度 第 3 回 CCC 電気通信工学グループ運営委員会議事概要

I. 平成 23 年 9 月 28 日（水）午後 5 時 30 分から午後 10 時 30 分まで

II. 場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：玉野委員、岳委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 検討内容

1. アンケートに向けた授業モデル案の検討について

アンケートのための教育改善モデルを中心に議論し、電気通信工学教育における教育改善モデル（中間まとめ案 1）と電気通信工学教育における教育改善モデル（中間まとめ案 2）をまとめた。

（1）中間モデル案 1 について

- ・ 到達目標は 1, 2 としていたが、2 にすることにした。
- ・ ねらいでは、振り返りが出来る仕組み作りとしていたが、「基礎科目に加えて知識の体系化を図る総合的なプロジェクト学習を行うことで電気通信工学と社会との関連性を体得させ、主体的な学びを目指す。」とした。
- ・ 仕組みには、「初年次から基礎科目と併せて知識の体系化を図る総合的学習として行うことを前提とする。」と加えることにした。
- ・ シナリオでは、eラーニングからプロジェクト学習に変更し、4 年間で点検確認にファシリテータの支援を追加した。
- ・ 効果、学習環境には、産業界含めた交流を、現場情報の提供から始めて、ファシリテータの支援も含めることにした。
- ・ 運営上の問題・課題については、産学連携の仕組みを追加した。

（2）中間モデル案 2 について

- ・ 到達目標は 3, 4 としていたが、4 にすることにした。
- ・ ねらいでは、安心・安全を課題にとりあげていたが、「社会ニーズとの関連性の中で電気通信工学の可能性と限界を迫及することが不十分であった」とし、時間外や大学連携などグローバルな学習環境としていたが、「グローバルな視点から他分野との連携の中で、問題解決に取り組むことができるようフォーラム形式で理想とする姿を迫及することを目指す」とした。
- ・ 仕組みでは、学習環境から質保証まで広く盛り込んでいたが、「電気通信工学の専門知識と倫理、法規、管理などの知識を身に付けていることを前提とする。」と前提内容を追加して、「連携するプラットフォームの構築」や「ファシリテータによる学

びの支援」の内容に整理した。質保証として「到達度の確認は、グループの学習成果を社会に発信し、社会の意見を踏まえた内外の評価により行う。」とした。

- ・ シナリオでは、大学間や社会の専門家の支援など前回の提案を活かし、成果発表に社会に発信することを追加した。
- ・ 学習内容・方法は、継続して「先端エネルギー工学」を一例として、社会ニーズを取り上げて、調査分析・討論からネット掲載し、グループ間体系化を図り、ネットでの意見交換を行い、解決の方向性を企画し、発展的な学びに結び付けることにした。
- ・ 学習環境には、大学間や社会の専門家の支援などでクラウド環境を入れ、発展的な学びのため社会への発信にも翻訳システムの整備を追加した。
- ・ 問題・課題については、ファシリテータの制度を人材データベース構築として提案がされた。

2. 次の日に整理した原稿の内容をメールでもう一度確認および修正して、サイバーFD 研究員のメンバーにアンケートにまわすことになった。

V. 次回の開催日程

アンケート後に、メールで調整し、開催することにした。